http://www.edu.pref.kagoshima.jp/　（通巻第１７４０号）

指導資料

鹿児島県総合教育センター

国　語　第125号

－高等学校，特別支援学校対象－

平成24年10月発行

「国語総合」における〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の指導の在り方

新学習指導要領において「国語総合」は共通必履修科目に設定されており，言語活動の充実に資する高等学校国語科の中でも，学習の基盤形成の場として，中核となる科目といえる。

「国語総合」については，今回の改訂で内容構成についての改善が加えられ，指導事項〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕が新設された。この指導事項は小学校及び中学校の国語科でも新たに設けられたものである。

そこで本稿では，小学校及び中学校国語科と密接に関連し発展させた，「国語総合」における〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の指導の在り方について述べる。

１　〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の学びの系統性

新学習指導要領においては，〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕における各校種での指導事項と指導に用いる教材が，**表1**のとおり系統付けられた。

高等学校では，小学校及び中学校の指導との円滑な接続を図り，発展的に指導できるよう，学習の過程や系統性に配慮することが求められる。特に系統性の重視が必要と思われる古典文法や訓読のきまりに関する指導と音読・暗唱に関する指導とを例として考える。

表１　指導事項と指導に用いる教材

校　種	指　導　事　項	指導に用いる教材
小学校	我が国の歴史の中で創造され，継承されてきた伝統的な言語文化に親しみ，継承・発展させる態度を育てる。	低学年：（本や文章の読み聞かせとして）昔話，神話・伝承等 中学年：（音読として）易しい文語調の短歌や俳句 （意味を知り，使う指導として）慣用句や故事成語等 高学年：（内容の大体を知り，音読する指導として）古文・漢文，近代以降の文語調の文章など （昔の人のものの見方や感じ方を知る指導として）古典について解説した文章
中学校	小学校の学習の過程を踏まえ，一層古典に親しませるとともに，我が国に長く伝わる言語文化について関心を広げたり深めたりする。	(「古典には様々な種類があることを知ること」として)和歌，俳諧，物語，随筆，漢文，漢詩等のほか，能，狂言，歌舞伎，古典落語等の古典芸能
高等学校 （国語総合）	我が国の文化と外国の文化との関係に気付き，伝統的な言語文化へ興味・関心を広げる。	(古典に関する教材として)古文では和歌，俳諧，物語，随筆，日記，説話，浮世草子，能，狂言等 漢文では思想，史伝，詩文等

(1)　学びの系統性を意識した古典文法の指導

古典教材の読みを深めるために，古典文法や訓読のきまりに関する学習は不可欠である。中学校での古典文法の学習に関して，「中学校学習指導要領解説　国語編」には「生徒の興味・関心を大切にしながら，教材に即して指導したり，必要に応じて取り立て指導したりする」とあることを踏まえ，高等学校での指導を工夫する必要がある。すなわち，義務教育での既習の学習事項と，高等学校での新規の学習事項とを改めて整理したり，文法や訓読の一定の規則性について考察したりする学習活動を取り入れるなどの工夫をして，知識・技能の習得を促す必要がある。

(2)　学びの系統性を意識した音読・暗唱の指導

音読・暗唱などに関して，小学校では，第３学年から親しみやすい古文・漢文を音読する学習をしている。小学校・中学校から古典特有のリズムに十分親しんできた高校生に対しては，音読・暗唱への意欲を更に喚起するような学習指導が求められる。例えば，高校漢文の教材には，重文や有属文等，構造が複雑な文が頻出するので，複雑な漢文の構造の理解を促すような音読や暗唱の工夫が求められる。外国語科学習でのチャンクを応用して，重文・有属文を単文化して音読をすれば，構文の単純化・構造化の作業を経て，構文理解につながる。また，指導者の話す作品の現代語訳を生徒が口頭で書き下し文に直すという音読・暗唱を行えば，漢文独特のリズムを内容と想起しながら味わうことを経て，漢文の構造の理解や読みの深化へつながる音読が可能となる。

このように，小学校・中学校での学習を踏まえ，高等学校での学びへと発展する指導の工夫をして，学びの系統性を明確にしたい。

２　〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の指導における実践例

ここでは，〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕を，「Ｃ　読むこと」を通して学ぶ単元として設定した。古典の漢文を教材として「ア　伝統的な言語文化」と「イ　言葉の特徴やきまりに関する事項」との両方を指導事項として組み入れたものである。

(1) 単元の構想

〔単元名〕「漢文に親しむ」（４時間）

〔教材〕「狐借虎威」（『戦国策』）

〔単元の目標〕

ア　言語芸術としての古典を読み味わい，伝統的な言語文化への興味・関心をもつようになる。

イ　漢文特有の表現法を理解するとともに，これらを日常の言語生活に転用する学習活動を通して，今後の言語生活をより豊かなものとすることができるようになる。

〔教材選定の理由〕

故事成語「虎の威を借る狐」の基となった『戦国策』の一節を教材とした。動物を擬人化した，いわゆる「寓話」のスタイルで，権謀術数を繰り広げる古代中国の人々の様子が語られていて，高校生の関心を引く内容である。文体も平易で読み易く，高校漢文の入門期の教材として好適と言える。

また，この単元で故事成語を学ぶに当たり，四字熟語や慣用句に関す学習といった，小学校や中学校での「国語の特質に関する事項」の学びのつながりができる。この単元の学習指導計画及び評価規準を**表２**に示す。

表２　学習指導計画及び評価規準

	主たる学習活動	評価規準と 育成する言語能力・指導事項	○：（C）状況と評価した生徒が（B）状況を実現するための手立て〔補充指導〕 ◎：（B）状況と評価した生徒が（A）状況を実現するための手立て〔深化指導〕
第１時	・　訓点に注意しながら音読する。 ・　訓点や漢文の句法に注意し，書き下し文に直す。	・　訓点のきまりや漢文の句法を理解している。 **(読む能力)** **〈知識・理解〔伝〕ア（イ）〉**	○：　返り点の働きや，歴史的仮名遣いについて，補助資料を用いて振り返らせる。 ◎：　内容について考えながら音読するよう助言する。
第２時	・　本文から成立した故事成語の意味についてまとめる。 ・　登場人物の心情を独白の形式で書くことで，内容と作者の意図を考察する。	・　漢文の内容や表現の意図を理解し，読み味わっている。 **(読む能力)** **〈知識・理解〔伝〕ア（ア）〉**	○：　登場人物同士の相関を確認しつつ，それぞれの発言や行動を整理することで，本文中での役割を考えさせる。 ◎：　作者の意図を推察させたり，故事成語の意義について考えさせたりすることで，日本の文化と外国の文化とを比較するよう助言する。
第３時	・　それぞれ選択したテーマで作文を書く。	・　漢文特有の表現や故事成語の成り立ちについて興味・関心を広げ，自分の表現活動の向上に生かそうとしている。 **〈知識・理解〔伝〕イ（ア）〉**	○：　当該の学習者の，前時までの学習への理解や興味を鑑みながら，書きやすいテーマを助言するとともに，構成を示して書く意欲をもたせる。 ◎：　構成を意識して，条件の全てを踏まえつつまとめるよう助言する。
第４時	・　書いた作文を基に生徒同士で読みの交流をし，相互評価・自己評価を経て，推敲する。	・　古典への関心を深めたり，自分の表現活動をより磨こうという意欲をもっている。 **〈関心・意欲・態度〉**	○：　自分にはない発想や表現を発見する視点で他者評価するよう助言する。 ◎：　批正としての他者評価になっているか，また他者評価を反映した自己評価ができているか確認させる。

(2) 指導上の工夫

学習指導計画（表２）で，第１時で文語のきまり，訓読のきまりに関する学習に引き続き，第２時でも「伝統的な言語文化に関する事項」を指導事項として組み入れた。ここでは「C　読むこと」の言語活動として，登場人物の三者（虎・狐・百獣）の心情を考えさせる活動を設定している。そこで，**ワークシート①（図１）**を用いて，登場人物三者の心情，策略の意図等を独白の形態で書き込ませることで，曖昧になりがちな登場人物同士の相関や登場人物の発言の真意などを読み取らせる。この活動を通して読みが深まり，漢文のおもしろさを味わうことができる。

第３時では，「伝統的な言語文化に関する事項」と「言葉の特徴やきまりに関する事項」の指導を取り入れた。漢文に関する200字程度の文章を書く活動を通して，中国の文化と日本の文化の関係に気付かせたり，古典の価値について考えさせたりして，古典への興味・関心をもたせる。具体的には，**ワークシート②（図２）**にあるように，寓話を用いた説得テクニックの妙や，内容や表現のおもし

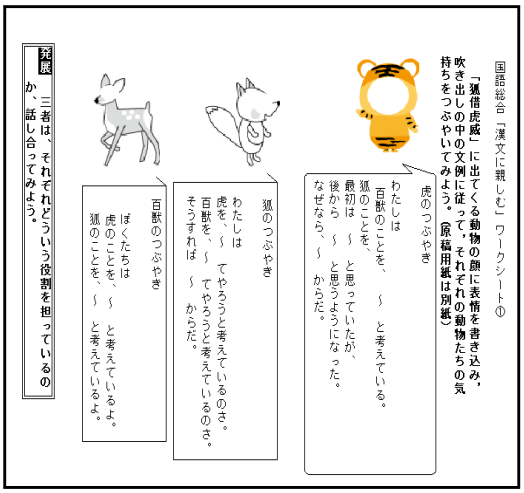

図１　ワークシート①

ろさ，又は授業中に生徒から出た疑問等を挙げて，感想を述べたり批評したりして，作文を書かせる。作文は第４時に設定した読みの交流によって，批正されるとともに，生徒も他者の作品を読むことで，古典への興味・関心を広げる。

さらに，本単元で学習した使役・反語表現を作文に用いることで，生徒は表現の深みの変化に気付くことができるようになる。すなわち，古典の学習をきっかけに，それまで知らなかった言葉に関心をもち，日常の言語生活で積極的にそれを用いる指導をすることで，古典での「国語」の学びが，現代の言語生活に資するものであることを実感させる。

国語総合「漢文に親しむ」ワークシート②

夏休みに体験入学する中学生に向けて、漢文のおもしろさをＰＲする紹介文（二百字）を書こう。

テーマ（選択）

・動物のたとえ話を用いた、古代中国の人々の説得テクニック
・「狐借虎威」の狐は悪者なのか
・故事成語の魅力
・漢文の句法のおもしろさ
・漢文と現代語との違い
・訓読の仕方を学ぼう

条件１
原稿をそのまま印刷し、次時の「交流会」に用いますから、適切な漢字表記で丁寧にはっきりと書いてください。

条件２
「禁止」「使役」「反語」を学習したので、このうちの「使役」「反語」の表現のいずれかを一回用いること。
用いた箇所には波線を引いてください。

条件３
紹介文作成の目的を踏まえ、**漢文のおもしろさが十分に伝わるよう**、工夫してください。

図２　ワークシート②

次の**図３・４**は，の**ワークシート②**（**図２**）を用いた活動によって作成された生徒の作品例である。作品の中の波線は，作文を書くときの条件(**図２**条件２)に従って「使役」「反語」を用いた表現を示している。

このように，古典の学びに「国語の特質に関する事項」の指導を組み込むことで，更に古典に親しむ態度を養うという，「伝統的な言語文化に関する事項」の指導へのフィードバックも可能になる。

作品①
「『狐借虎威』の狐は悪者なのか」

「虎の威を借る狐」は，強者の威をかさに虚勢を張る弱者を表した故事成語で，悪い意味で使われます。最初僕は狐が悪者とは思えませんでした。確かに狐は虎に嘘をつきましたが，他の動物に迷惑をかけていないからです。しかし授業で狐の意図を考えるうち，正しくはないことに気付きました。高校で漢文を勉強すれば，故事成語の奥深さに気づけるかもしれません。こんな話を普段の会話でできたらかっこよくないですか，いえ，絶対かっこいいですよね。

図３　紹介文例①

作品②
「古代中国の人々の説得テクニック」

漢文の中には，わかりにくいことをわかりやすく伝えるテクニックが多くあります。「狐借虎威」もその一例です。虎と狐の関係のような強者と弱者の関係は，一見人間関係の中では複雑で説明しにくいものです。そこで中国の古代の人々は，話を理解してもらうために動物たちにそれを語らせました。このように漢文を学ぶことで古代の人々の類まれなる説得テクニックに触れることができます。高校古典を楽しみにしてください。

図４　紹介文例②

「国語総合」は全ての高校生が学ぶ共通必履修科目である。小・中・高等学校の系統性を踏まえた〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の指導を通して，古典が現代を生きる生徒たちにとって「生きて働く」ものとして，興味・関心を広げるように，指導者の創意・工夫と実践が求められている。

－引用・参考文献－
○　文部科学省『中学校学習指導要領解説　国語編』
平成20年，東洋館出版社
○　文部科学省『高等学校学習指導要領解説　国語編』
平成22年，教育出版
○　文部科学省『小学校学習指導要領解説　国語編』
平成20年，東洋館出版社

（企画課）